

私が剣道をする意味

東京都

東京櫛剣士会

中学1年 佐藤 日菜子

皆さんは自分がなぜ、剣道をしているのか、考えたことはありますか。私は母にこのことを問われた時、上手く言葉にできませんでした。

私は剣道を始めてから七年間で満足な結果が残せているわけではありません。そして、なかなか勝てないという現実に関心では悔しさを感じていたつもりでした。でも母に

「本気で勝ちたい、負けたくないと思ってやっているように思えない。本気で悔しさを感じているようにも思えない。技の出し方も中途半端。」

と、言われました。このことは、これまで時々言われていましたが、自分では「悔しい」「一生懸命やっている」と思っていたので、なぜ母がこのような指摘をするのか分かりませんでした。そして私は、母に言われた悔しさで涙が出る事もありました。

十月に、中学生になって初めての試合がありました。結果は、一分一敗。一勝も出来ずまた勝てませんでした。その日の夜、母と話をしました。その時母に

「あなたの悔しさは百のうちどれくらい。」

と、聞かれ

「本当に悔しかったら、あの時こうすれば良かった、何であれが出来なかったのだろうと、頭の中がいっぱいになるはず。」

と、言われました。私は

「五十くらい。」

と、答えました。すると母は

「それでは力はない。何でも本気で結果を出したいと思ってやってこそ力がつくもの。そして、本気でやったからこそ結果が出なかった時の悔しさは大きいもの。」

と、言われました。私はまた涙が止まりませんでした。でも、その涙は、これまでの涙とは違っていました。母に言われた事ではなく、自分の甘さを自覚したのです。剣道に限らず、何事にも本気で取り組んでいなかったのではないかと感じ、その悔しさの涙でした。言われてみれば私は、何においても中途半端。学習においてもミスが多く、詰めが甘い事をよく言われていました。優柔不断で、人との関わりの中では、相手からの言葉で自分の意思を通し

きれない事もあります。自分の心の弱さ、物事への向き合い方が剣道に表れているのだと感じました。そして、そういった自分の甘さ、弱い心に、自分自身が勝たなくてはいけないのだと思いました。

さらに母は、母自身が昔祖父によく言われていた事を話してくれました。祖父は応じ技をよく使っていた母に

「さがるな。受け身ではなく、攻める剣道をしなさい。お前の剣道にはお前の生き方が表れている。」

と、言っていたそうです。様々な面で、挑戦するよりも安全な道へ進もうとする母に

『失敗を恐れず前へ進みなさい。』ということを教えてくれていたのだと思う。」

と、母は言っていました。つまり、母は、私と同じ道を歩んできたからこそ、私の弱い部分を指摘してくれたのだと分かりました。

また、私の父は剣道未経験ながらも、七年前、私と一緒に剣道を始めました。父に何で剣道をやり始めたのか聞いてみました。父の答えは

「大人になって、過去の弱かった自分との戦いをしている。」

でした。父はこれまでの人生で、何かを継続することの苦しさや何かを成し遂げる事の大変さから逃げてきたそうです。だから今、剣道を一生懸命に続けることで過去の心の弱かった自分を見つめ直しているのだそうです。

私は、母や父との話から、自分が何のために剣道をしているのかを改めて考えてみました。そして、私が剣道をする意味は、「剣道を通して、自分の弱さや物事への向き合い方等を知り、自分自身を見つめていくこと」なのだと思います。そしてそれが、自分の生き方に繋がっていくのだと思います。

これから先、進路を決める時や大人になってからも自分の意志で前に進まなくてはならない場面が多くあるはずです。その場面に直面した時には、逃げの選択をしたり、中途半端な気持ちで取り組んだりするのではなく、強い心を持って挑戦していきたいです。そのためにも、自分の生き方を通して剣道の技を磨き、また、剣道を通して自分自身を知りながら、常に前へ進んでいこうと思います。